＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
ふくしま　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　２０１８．８．７

復興支援フォーラムニュース　　No.135

(URL　http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html)
＜事務連絡先＞　今野順夫（tkonno67@gmail.com）
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【第133回ふくしま復興支援フォーラム／2018年8月7日・AOZ 視聴覚室】

福島の復興と“2020年問題”

福島大学　川﨑興太

１．はじめに

●福島復興政策は、2016年度末で大きく転換

●この政策転換は、被災者や被災地の実態からみて、合理性や正当性を持ちうるものなのか？

２．「除染の終了」後における除染に関する課題

●“除染なくして復興なし”との理念

●除染は、2016年度末をもって、基本的に終了

●しかし、「除染の終了」後にも、中間貯蔵施設や仮置場、森林や河川等、フォローアップ除染、帰還困難区域などに関して、除染に関する課題が山積

３．避難指示解除地域の実相と復興に向けた課題

●双葉町と大熊町以外の市町村では、2017年4月までに帰還困難区域を除いて、避難指示が解除

●除染とインフラの復旧・再生が終わり、帰還して生活できる環境が回復したとの政府の判断

●しかし、

・被災者：帰還者は、帰還をもって生活再建が果たされたわけではなく、避難者ではなくなったものの、困難性と不可能性に満ちた環境のもとで暮らす被災者である

・被災地：原子力発電所や放射能の問題を抜きにしても、多くの被災者にとって帰還を選択することが可能な程度にまで生活環境が回復していない

４．福島復興のスタートライン

●“2020年問題”、すなわち､2020年までに原子力災害を克服した国の姿を形づくるために進められている福島復興政策から発生する諸問題が発生

●“正攻法”の復興政策を確立･充実することの必要性

◇◇◇

＜第132回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等＞

2018年7月27日、福島市AOZで、第132回ふくしま復興支援フォーラムを開催しました。る58人の市民が参加し、熱心な質疑応答が続きました。

齋藤紀氏（わたり病院医師）から、「福島第一原発事故における医学的問題をどう考えるか　～甲状腺がんの発生率をめぐって」をテーマに報告していただきました。酷暑の中ですが、関心のあ

同会場で、文書提出されたご意見・ご感想は以下の通りです。参考にしてください。

～～～～～～～～～～～～～～～～

★　先生のおっしゃった“犠牲”という言葉が、胸につきささりました。(K.A)

★　本日のような数値、統計をもっときちんと提示すべきと思った。確かに、どなたかが言ったように、最初に結論ありきの説明では、ますます不安と混乱が起きてしまうと思った。齋藤先生の熱意に感謝です。(H.O)

★　公開された確かな根拠（論文）と小学生でも理解できるほど簡単な計算だけを使って、スッキリと、誰でも理解できる結論に共有することができました。ムズカシイ問題ではない（科学的には）ことなのだ、ということが、これまでになかった明瞭なものでした。ありがとうございました。(M.H)

★　研究が研究のためではなく、人間性に満ちあふれた研究の姿を示されて、感銘を受けた。(T.N)

★　何年かに一度しか聴けないような素晴らしい報告をうかがえた。この報告とそのためのデータ、論理はあとあとまで残る記念碑的な歴史的な価値と意味をもったものと受け止めたい。(S.I)

★　福島にいる40人前後の人たちだけが聴くには、余りにももったいない内容だったと思います。全国紙、全国放送で、広く伝えてほしいです。今日のスライドをネットで見られるようにしていただけると嬉しいです。(I.M)

★　ていねいで分かりやすい言葉で説明いただいていた。医療の専門家(医療に限りませんが)、こうあるべきと感じた。また、子供達にデータ結果の成果を返すべきとの言葉は重いです。子供達に、未来があるようにしていく必要を感じた。(J.M)

★　久しぶりに数学的な脳ミソをフル回転させて聴いていました。「従来の50倍」とする主張の理由（理屈）がよく分かりました。ＫＫ調査データは、子どもたちの犠牲のもとにある、とのご解説は、納得です。(N.O)

★　「県民健康調査のデータは、子どもと親のもの」という最後のお話を、調査結果を扱う検討委員会のメンバーが、基本となる出発点としてほしいと思いました。単発に分断されたデータ公表の問題も、なるほどと思いました。(M.K)

★　講演もすばらしかったが、質疑応答に、充分な時間がとれてよかった。(S.S)

★　多方面から解析・検討を加えていくことの大切さを学ぶことができました。その一方で、単純に「多いよね！」という感覚も大切にしていきたいと思います。(S.A)

★　同じ土俵に乗って、今まで議論していたのでしょうか。今まで多発の話を聞いてると、このことばかり考えていました。もっと検査結果の意味について、子どもとその親に説明してほしいです。(Y.I)

★　後ろから見えるように、スクリーンをもっと高くしてください。また、スライドが全部入るように調整してください。

★　(1)#132ふくしま復興支援フォーラムを開催して頂き有難うございます。(2)「20～50倍の発生率は成り立たない数値である」この意味の理解はとてもむづかしいです。(3)半減期8日間のI-131は2011年5月末に消えた＝消えたものの追求はむずかしい事がよくわかりました。(CS134半減期2年？は、CS137に比べ短いですね) (4)私見ですが、被爆管理は責任をもって、国が対象者全員の最低30年？は県民健康調査＝健康診断が必要でないないでしょうか。要求し続けていきたいと思います。(T.S)

★　改めて、調査結果の慎重な分析が必要と思いました。結論優先のデータ分析ではなく、慎重なデータの扱いは、研究者にも、マスメディアにも求められていると思いました。そうした慎重な扱いを可能とする、社会的環境が必要と思いました。(T.K)

◆◆◆◆【会場カンパありがとうございました】◆◆◆◆

第131回ふくしま復興支援フォーラム（7月27日）の会場で、カンパ8,200 円をお寄せいただき、ありがとうございました。ご報告とともに、御礼申し上げます。（今野）

【会計報告】（2018.7.30現在）

第1期（～2015.9）累計　　収入214,746円　　支出207,640円　残（繰越）7,106円

第2期（2016.10.27～）

「収入」	（2018.6.20までの累計）	130,843円	（第1期　繰越　7,106円含む）
	会場カンパ(2018.7.27)	8,200円	
	計	139,043円	
「支出」	(2017.7.30まで累計)	108,680円	
	計	108,680円	
「残金（現在高）」	2018.7.30	30,363円	

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽

＜予告＞

第134回(2018年8月22日(水)　18時30分～20時30分)

テーマ　「原発・除染労働者の労働問題等の相談事例について」
報告者　狩野　光昭　氏　（フクシマ原発労働者相談センター代表）
会　場　福島市アクティブシニアセンター「ＡＯＺ（アオウゼ)」
　　視聴覚室　ＭＡＸふくしま４Ｆ（福島市曾根田町1－18）

第135回（2018年9月8日（土）　18時30分～20時30分）
テーマ　「飯舘村『農』の再生に向けて」
報告者　杉岡　誠　氏　（飯舘村復興対策課農政第一係長）
会　場　福島市アクティブシニアセンター「ＡＯＺ（アオウゼ)」
　　小活動室1－2　ＭＡＸふくしま４Ｆ（福島市曾根田町1－18）